



2019年10月11日

各 位

会 社 名 株式会社市進ホールディングス
代 表 者 代表取締役社長 下屋 俊裕
(コード番号 4645 東証 JASDAQ)
問合せ先 執行役員統括本部副本部長 尾和 保弘
電 話 047 (335) 2840

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、2019年4月15日に公表しました2020年2月期第2四半期の業績予想を下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

2020年2月期第2四半期の業績予想数値の修正 (2019年3月1日~2019年8月31日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	8,041	△44	△124	29	2円95銭
今回修正予想 (B)	7,970	△112	△237	△244	△24円53銭
増減額 (B - A)	△70	△67	△113	△273	-
増減率 (%)	-	-	-	-	-
(ご参考) 前期実績	7,910	45	△34	△55	△5円60銭

修正の理由

2020年2月期第2四半期の業績予想に関しまして、売上高および営業利益につきましては、売上高を前年同期比プラス131百万円で見込んでおりましたが、前年同期比プラス60百万円にとどまったため、売上高の業績予想差はマイナス70百万円となり、営業利益はマイナス67百万円となりました。主な要因としては、株式会社市進が運営する市進学院での夏期講習前早期入会者に対する夏期講習料金割引キャンペーンを追加で実施した点、株式会社茨進が茨城県で展開している茨進において、3月立ち上りの在籍生徒数が厳しく、夏期講習を経て当初計画値に届いたものの、予想よりも回復が遅れた点、介護事業を展開する株式会社時の生産物が運営するデイサービスN I W Aの機能向上型トレーニング施設において、行政の制度変更の影響による利用者減少とその回復が当初目標値まで届かなかった点などが挙げられます。経常利益においては、営業外損失として株式会社 TOKYO GLOBAL GATEWAY の持分法投資損失が当初予想よりも増えたことなどがありました。また、川越市の自社所有物件の売却益約250百万円につきまして当初予想では第2四半期決算までの計上を見込んでおりましたが、第3四半期決算での計上となったことから親会社株主に帰属する四半期純利益は当初予想を下回りました。なお、2019年9月10日開示のとおり自社所有物件の売却は完了しており、通期業績予想に影響はございません。

通期業績予想につきましては、今後、事業環境の変化や市況変動等を踏まえ、修正が必要である場合には、適時公表いたします。

(注) 業績予想につきましては、現時点で想定できる情報に基づき判断したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により異なる可能性があります。

以上